２０２４年（令和６年）　３月１９日　火曜日

東奥日報　１５面　掲載

センバツ 第96回 高校野球

第１日

第96回選抜高校野球大会が18日、甲子園球場で開幕した。開会式に続き、１回戦３試合が行われ、八戸学院光星、星稜（石川）、熊本国府が２回戦に進出した。八学光星は関東第一（東京）に延長十一回タイブレーク、５―３で競り勝った。昨秋の明治神宮大会を制した星稜は21世紀枠の田辺（和歌山）を４―２で下した。２―２の九回に代打東が２点適時打を放った。初出場の熊本国府は近江（滋賀）に延長十回タイブレークの末、２―１でサヨナラ勝ち。１―１の十回に暴投で決勝点を挙げた。今大会から投手の受傷事故防止を目的とした低反発の新基準バットが導入された。決勝は30日の予定。

接戦 光星粘り勝ち

関東一と開幕戦 タイブレーク制す

反撃断つ継投 逆転呼ぶ

【評】八学光星が粘り強さで接戦を制し、開幕試合を白星で飾った。１―１に三上の犠飛で追い付き延長タイブレークへ突入。十一回1死二、三塁の好機に途中出場の萩原が右前へ適時打を放ち同点に。八回にリードを許したが、すかさず九回2点を追加し突き放した。先発の洗平は9回を投げ被安打9、6奪三振、2失点と力投。十回から継投した岡本琉は満塁のピンチを三振で切り抜けるなど要所を締めた。

【八学光星―関東第一】9回を2失点に抑えた八学光星の先発洗平

延長10回裏、タイブレークを無失点に抑えガッツポーズで喜ぶ八学光星の２番手・岡本琉

左の二枚看板 洗平、岡本琉

ハイライト

八学光星投手陣の二枚看板・洗平と岡本琉の継投が光った。先発した洗平は9回を投げ被安打9、6奪三振で2失点。岡本琉も2回1失点と踏ん張り、チームに勝利を呼び込んだ。仲井監督は「競り合ってきた2人が見事なピッチングをしてくれた」とたたえた。

五回2死から失点を喫した洗平。その後も2者連続四球で満塁のピンチを迎えたが、得意のスライダーで勝負し右飛に切って取った。「点を取られた後にいつもは崩れるが、粘り切れたのは大きかった」と振り返った。

ただファウルで粘る相手には手を焼いた。この日は変化球を中心に低めを突いたものの、9回で156球と球数がかさんだ。「練習試合も含め、150球を超えたことはない。4四球が球数にも影響したと思う」と反省も口にした。

十回から登板した岡本琉は「粘ってくれた（洗平）比呂のために」と奮闘。1死二、三塁の場面で申告敬遠し満塁策を取ると、「打てるものなら打ってみろ」とばかりに自信のある直球で押し続けた。遊ゴロと空振り三振と完璧に抑え、ガッツポーズで感情を爆発させた。十一回に暴投で失点したが、直球勝負で反撃を封じ切った。

試合後には「よく投げた」（洗平）、「ナイスピッチ」（岡本琉）と声をかけ合った両左腕。洗平は「四死球を減らすよう修正していきたい」、岡本琉は「自分はいいピッチングができると信じて投げたい」と次戦を見据えた。（棟方好華）

粘り強く戦ってくれた

八戸学院光星・仲井監督　「苦しい試合だったが先制されても大崩れせず粘り強く戦ってくれた。相手の好投手に翻弄（ほんろう）される場面もあったが、最後は野球の神様が味方してくれた。もう一度気持ちを入れ替え、一戦一戦しっかりと戦っていく」

チーム勢いづく

八戸学院光星・砂子田主将　「練習試合でも粘り勝ってきたので最後まで自信が持てた。こういう展開をものにできてチームとして勢いづく」

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです